Osaka University Knowledge Archive

Title	胸管あるいは後腹膜リンパ系の通過障害におけるリンパ系のレ線学的研究 : 特にリンパ管静脈吻合と乳ビ性逆流について
Author(s)	田路, 良博
Citation	大阪大学, 1969, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/29977
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

【11】

氏名・(本籍)	田路良博（たじよしひろ）
学位の種類	医学博士
学位記番号	第 1753 号
学位授与の日付	昭和44年5月1日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当
学位論文題目	**胸管あるいは後腹膜リンパ系の通過障害におけるリンパ系のレ線学的研究** **—特にリンパ管静脈吻合と乳ビ性逆流について—**
論文審査委員	(主査) 教授 立入 弘 (副査) 教授 宮地 徹 教授 園田 孝夫

論文内容の要旨

〔目　　的〕

著者は1962年より Kinmonth 法に準じて，臨床的にリンパ造影をおこなってきた450症例のうち，レ線学的に興味のあるリンパ管静脈吻合，乳び尿症および蛋白漏出性胃腸症のリンパ造影像を分析し，特徴的なレ線像を明らかにし，その病態生理学的考察を試みた。さらに健常成犬を用いて実験的にリンパ系の通過障害をおこさせ，経時的に造影したリンパ像と臨床例を対比させて考察し，病因追求をおこなった。

〔方法ならびに成績〕

臨床的研究

本研究の対象としたのは，リンパ管静脈吻合7例，乳び尿症23例，蛋白漏出性胃腸症16例である。リンパ管静脈吻合7例はすべて悪性腫瘍によるリンパ系閉塞が原因で2例は門脈系と吻合して肝栓塞をみとめ，他の5例は腸骨部で静脈系と吻合し，高度の肺栓塞をきたし腸骨部より上部はほとんど造影されず，胸管はまったく造影されなかった。乳び尿症23例はフイラリア症によるものですべてに腎への逆流像を認めた。そのうち両側腎への逆流が17例，左側あるいは右側腎のみへの逆流はそれぞれ4例と2例であった。また腸間膜あるいは肋間への逆流をともなっている症例がそれぞれ5例と2例であった。胸管は全例多少とも蛇行しており，拡張および狭窄を思わせる像があることは普通である。胸管が拡張して静脈入口部で狭窄が疑われ，手術により狭窄を証明出来なかった症例があった。蛋白漏出性胃腸症16例はすべて臨床検査で消化管中へのいちじるしい蛋白漏出を証明されたものである。このうちリンパ造影で胸管に狭窄のあったもの5例は乳び槽部から腰椎骨盤部にかけてリンパ管の拡張，蛇行，網状像を示した。収縮性心のう炎の2例には胸管の拡張，蛇行が特徴的であった。Menétrier 病，胃潰瘍，限局性回腸炎，大腸炎等の

消化器疾患群には，リンパ造影上ほとんど変化を認めなかった。

実験的研究

健常成犬（8～10kg）39頭を用いて，胸管あるいは，後腹膜リンパ系の通過障害をおこさせてリンパ造影をおこなった。通過障害は上部胸管結紮群，テレピン油の乳び槽周囲注入群，乳び槽部の放射線照射群の3群を作成した。乳び尿症や蛋白漏出性胃腸症との関連性を知るために組織学的検査，血清蛋白測定，Gordon's test をおこなった。リンパ造影でリンパ系閉塞後10日前後でリンパ管静脈吻合を認めた。2日後で乳び性逆流像は最もいちじるしく腸間膜，肝，腎，胃リンパ系が造影された。組織学的検査でいずれもリンパ管，腔の拡張が認められた。肝では門脈周囲にリンパ管のいちじるしい拡張がみられ，比較的末梢部ではリンパ管より門脈内に造影剤の流入する部位も認められた。腎では腎門部の動脈周囲にいちじるしく拡大したリンパ管が造影剤を充満しており，末梢部では拡張したリンパ腔より漏出した造影剤が尿細管中に認められた。上部胸管結紮群で Gordon's test をおこなった結果では，結紮4日後の1例は7.9%と高値をとり9日後の2例はそれぞれ2.6%，2.9%で，正常例は1.6%で最も低い値をとり乳び性逆流の程度と一致した。

〔総　　括〕

1）悪性腫瘍，手術後などにおこるリンパ系の閉塞時に副行路としてリンパ管静脈吻合が出来る。リンパ系閉塞による実験で吻合が出来るまでの期間は10日前後である。

2）リンパ造影をおこなう時には，リンパ管静脈吻合が出来ていると肺栓塞がおこるので注意する必要がある。

3）乳び尿症ではリンパ造影で腎リンパ系への逆流が認められる。実験的にリンパ系を閉塞すると逆行性に腎リンパ系が造影され，更に組織学的に尿細管への造影剤の漏出を確認した。

4）蛋白漏出性胃腸症は本研究から3群に分類される。

a）腸間膜および胃，腸管リンパ系の異常によるもの。

b）収縮性心のう炎によるもの。

c）胸管および乳び槽部に通過障害がある場合。

a群はほとんど異常像を認めない。b，c群では診断，治療的価値は大きい。

5）実験的にリンパ造影で逆行性に腸間膜，腎，肝，胃のリンパ系の造影に初めて成功した。軟レ線撮影と組織学的検討で確認した。悪性腫瘍のリンパ行性転移経路を知る上で意義深い。

論文の審査結果の要旨

リンパ管静脈吻合，乳び尿症，蛋白漏出性胃腸症についてリンパ造影的に詳細な分析をおこない特に蛋白漏出性胃腸症についてはこれを3群に分類し原因疾患による特徴像を初めて解明した。成犬の実験で逆行性に腸間膜，腎，肝，胃のリンパ系の造影に初めて成功し，軟レ線撮影と組織学的検討で確認した。このことは悪性腫瘍のリンパ行性転移経路を知るために重要で臨床応用上意義深い。又さらに細尿管への造影剤の漏出を認めて乳び尿症を実験的につくる可能性をえた。